

宮の森



発行元・白鳥神社総代会

四ツ石の謎



四ツ石の謎

今春、「四ツの石が一体何のために置かれているのか、推理してほしい」という課題をいただきました。日頃から白鳥神社の秘密に関心を持つ者として光栄に感じ、喜んでお引き受けしたものの、リサーチを始めるにすべに、これが相当難問であることがわかりました。白鳥神社の蔵書は明治の「白鳥大火」ですべて焼失している以上、他の神社の事例をもとに推論するのが妥当ですが、困ったことに、類例がほとんど見当たらないのです。

「石神」をお祀りする神社は無数にあります。神の依り代（よりしろ）としての磐座（いわくら）や、聖域の境界をなす磐境（いわさか）がある神社も珍しくありません。でも、境内の中心的な敷地を四角く区切る形で石が置かれている神社は発見できませんでした。ちよつと似ていると言えるのが、京都の吉田神社の末社、今宮社です。その境内の隅に「四神（しじん）石」があるとされています。南東、南西、北西の隅にそれぞれ青竜石、白虎石、玄武石と名づけられた石があり、残る北東隅にも石があれば白鳥神社によく似た形になるのですが、そこに石はなく、一本の木が生えているだけです。

駒札には「東北の朱雀石は内陣に有りと伝えられる（中略）いすれも方位を守る霊石なり」と書かれており、本殿の床下などに隠れていることになりました。でも腑に落ちないのは、朱雀は「南方を守る神獣」であるはずなのに、「東北の朱雀石」と書かれていることです。朱雀石の位置付けは奇妙です。この辺に謎は残りますが、四ツの石が神社の聖なる場所を守護する目的で置かれる場合があることを、吉田今宮社の事例は物語っています。

四ツの石を持つ神社としてもう一か所、奈良・吉野山地の中心にあり、かつては弘法大師が修業をした聖地に鎮座する天河神社。ここには「天石」という四ツの石があるとされています。丘の上に建つ本殿に向かう階段の右側に一つ。同じ階段の左側に一つ。本殿の裏参道の階段を降りたところに一つ。これら三ツの石は、本殿のある丘を挟むように配置され、三角形の結界を張って聖域を守っているようです。そして面白いことに、ここでも四ツ目の石の場所

がはっきりしません。境内の西側に弁天橋が架かっている、その下の川底に四ツ目があると言われているのですが特定することは困難です。神社の公式見解でも、「正確な石の位置は不明」とされているようです。ただ、天河神社の参拝客のほとんどがこの橋を渡って来ることを考えると、四ツ目の石の役割もやはり、参道を浄化し、境内への邪気の侵入を防ぐことであるように思われます。

白鳥神社の境内にある四ツの立石は、誰が、いつ、どんな目的で置いたものなのか。他にそっくりな事例を探せない以上、秘密を解くためには自分の直感から推論するしかありません。人の少ない時間帯を見計らって白鳥神社の境内に立ってみました。(次号へつづく)

秋葉神社鳥居修繕



柱の根の外周が約10cm程腐ってしまい強風等には耐えられない状況でした。地面を50cmほど掘り下げて腐食部分を除去してコンクリートで固め、鉄筋も挿入し、その上は田形型枠を組んでコンクリートを打設しました。塗装は北條画伯が白鳥神社大鳥居と同じように仕上げてくださいました。三日間で仕上がりました。奉仕者名は前号に掲載しました。有難うございました。

白鳥神社の新年

例年十二月三十一日は午後十時頃から、総代衆は徹夜の態勢に入り、新年初詣のお客様をお迎えします。

(1) その全文を私なりに咀嚼し、掲載させていただきました。

手前にも一つ、大鳥居側の二つに比べ、本殿前の二つは小ぶりで大きさは揃っていないものの、四ツの石は連携しながら何らかの機能を果たしているように感じられます。神社関係の古老の方にお聴きしたが、何故、存在しているのかは不明であった。自分なりに調べても答えは出ず、以前、小欄で白鳥神社の秘密を執筆頂いた友田勝也氏に聞いてみました。友田氏も確たることは言えないがと前置きされ、寄稿して下さいました。

今年も、あいにくと小雨がぱらついて、通年のような人出とはなりません。この時期に雨が降る事など、近年では覚えがありません。これも異常気象の影響なのでしょうか？

それでも明けて元日午前二時頃までは参拝者が来られました。その後、一旦途切れましたが、午前八時頃から又、ご参拝の方は増えてまいりました。

午前九時には拜殿で歳旦祭が営われました。歳旦祭はその年、初めて神様にお参りをする初詣の事です。宮司が祝詞を上げて、自治会と総代の役員が列席し、箏曲・春の海が境内に流れる中で厳肅に行われました。

白鳥神社では初詣の皆様、本殿横のテントにて無料でお神酒を振る舞っております。お代わりは自由ですが、テイクアウトは致しておりません。お車の運転手さんだけは、ご遠慮申し上げます。このお神酒は、町内の原酒造さんが新年に、地酒・元文を言斗奉納されます。神殿にお供えて、その御下がりとして、皆様にお振舞いをいたしております。今年も幸多からんことを念じて召しあがっていただきます。



ご苦労様でした

この程、次の三名の方が、岐阜県神社庁郡上支部長から表彰されました。瀬上博通 殿、北條弘三 殿、このお



二人は、副総代長を三年、監査役を七年、計十年の長きに渡り、敬神の念篤く、神社の護持運営に献身的に邁進されました。その上、新年の門松作りには欠かせない存在となりました。加えて例年行われる秋祭りの準備、花切り作業にも率先参加され、お祭りを盛り上げて頂きました。

瀬木重瀧 (編集者でもあります)ので心境の一端を申し上げてお許しを乞う次第であります) 平成二十四年(2012)四月、初めて神社総代となり社務所での初会合でいきなり総代長を押し付けられました。右も左も

上も下も皆目解らない者にいきなり総代長とはこれ如何に！白鳥神社とはかくも理不尽な所かと憤慨するも多勢に無勢、押し切られて、いやいや就任。その後も、何かおだてられ、気が付いてみれば十年の歳月が流れていました。様々な軋轢や葛藤も有りましたが、楽しいこともありました。多くの人に助けられました。しかし多くの人にご迷惑もかけました。やらせて頂いて良かったと言ったのが偽らざる心境です。有難うございました。

今年度の総代陣容

この三月で監査役の瀬上博通様、北條弘三様と総代の原重樹様、久野博通様、寺田一晴様、上村公男様、白石治美様、長屋誠様が退任されました。

長きに渡り、白鳥神社に對しまして、篤いご支援、ご協力、誠に有難うございました。四月からは左記の陣容で護

持運営に当たります。変わらぬご支援、ご協力を宜しくお願い申し上げます。(赤字は新任です)

- 1号組.....野崎克美 二号組.....広瀬康弘
- 2号組.....古家孝一 四号組.....別府喜利
- 5号組.....日置紀寛 六号組.....曾我雄介
- 7号組.....野々村薫 八号組.....野崎正和
- 九号組.....白井幸夫 十号組.....神谷忠孔
- 十一号組.....日置捷司 十二号組.....田口学
- 十三号組.....野崎正博 十四号組.....猪俣強
- 十八号組.....木下好弘 十九号組.....高橋元之
- 宮司・瀬上孝男、社守・曾我幸男、補佐・正者憲次
- 総代長・古屋孝一、副・足立好教、副・三輪規裕
- 監査役・曾我誠、内ヶ島朗、相談役・瀬木重瀧

令和五年四月からの行事予定

- 4/1.....宮の森31号発行
- 4/3.....防火祈願祭〜秋葉神社
- 4/9.....初宮神事・新旧総代歓迎迎会
- 4/9.....宮掃除・井普請
- 5/3.....稻荷神社例祭神事
- 6/2.....自治会・総代会三夜会議
- 6/25.....宮掃除(自治会と共同)
- 7/16.....境内・秋葉神社草刈り清掃
- 7/21.....秋の例祭打合せ会議〜神楽幹部・総代三役
- 7/23.....初宮神事
- 7/30.....宮掃除(自治会と共同)

御寄進・ご奉仕

- 一、秋葉神社鳥居修繕基礎塗装.....北條弘三様
- 一、社務所雨戸袋清掃塗装.....足立好教様
- 心温かいご奉仕、誠に有難うございます。

御朱印受付

ご希望の方は0575(02)4387・瀬上宮司まで (文責・瀬木)